



2010年9月14日

モリタ、消防隊員の安全を守る放水ノズル
「ECO Fighter エコファイター」を北九州市立大学と共同開発
～ 水も CAFS もこのノズル 1 本で対応 ～

消防車の開発・製造・販売を手がける株式会社モリタホールディングス(本社:大阪・東京、代表取締役社長:中島正博、東証・大証 1 部)の 100%子会社、株式会社モリタ(本社:兵庫県三田・東京、代表取締役社長:中島正博)は、消火活動において、ノズル内の摩擦を最小限に抑え、CAFSの能力を最大限に活かし、消防隊員の安全を守る放水ノズル「ECO Fighter エコファイター」を北九州市立大学と共同開発いたしました。

今回、発表の「エコファイター」は、今後、CAFS (Compressed Air Foam System=圧縮空気泡消火装置)車が消防車のスタンダードとなりつつある背景において、さらに消防隊員の負荷を軽減した消火活動の必要性を求め、開発に至ったものです。この放水ノズルは、水と泡の切り替え、流量の切り替え、放水形状の変更ができます。また、このノズルを使用することで最適な泡を最適に放射でき、CAFSの性能を十分に発揮できます。泡の壁面への付着性が非常に高く、CAFSの冷却、窒息効果をより発揮します。



モリタでは、2007年に少量の水で消火能力を発揮できる画期的な消防車「Miracle CAFS Car」を開発。そして、CAFSの有効性を高く評価され、今日まで約300台を各自治体へ納入しております。それまで、水での消火を主流として開発してきた消防車も阪神大震災においては、水利である消火栓などの破損により、本来の機能を発揮できないという状況でした。そのような状況においても、少量の水で消火能力を発揮できる消防車が必要であると考え、開発に特化し成功。そして、2009年には、圧縮空気を動力源として有効活用したエゼクタ揚水装置のCAFS車を開発するなど、その技術は常に進化しています。

■「ECO Fighter エコファイター」の特長

- ・水・混合液、泡(ウェット・ドライ)の切り替えは、「CAFS・水切替ノブ」を切り替えるだけです。
- ・流量の切り替えは、独自のバブル機構の流量調整リングによってワンタッチで行えます。
- ・手元の放水形状変更リングを廻すだけで放水パターン(噴霧、棒状、棒状+自衛噴霧)を変更できます。
- ・脇ホールドタイプで放水反力を抑え、安定した姿勢で放水できます。
- ・低反動形状により、放水反力を軽減します。
- ・自衛噴霧でノズルより手前(隊員側)の領域を一気に大気温度まで下げると同時に煙も遮断し、隊員の安全な消火活動をサポートします。
- ・肩紐が長時間放水時の疲労を軽減します。



■ECO Fighter(エコファイター) 主な仕様

- 標準価格 170,000 円
- 全長約 約 590mm
- 質量 約 3.5kg
- 最大放水量 570L/min(ストレート時, 0.7MPa)
- ホース接続口径 50mm 差込式メス金具

本件に関するお問合せ先
株式会社モリタホールディングス 広報室 担当:浦野 TEL.03-5777-5088
E-mail:Hiroko.Urano@morita119.com